

■寺山修司 歌人、劇作家、演出家、映画監督、競馬評論家。一言では括れない天才的マルチ人間だったが、早世。

てらやましゅうじゅう

芥川直木賞始1935＝ 青森県弘前市に警察官の子として生まれる。

日中戦争始・1937＝ 2歳：

父の転勤で転居を繰り返すが、

日米開戦・・1941＝ 6歳：八戸在住の時、父が出征。青森市へ転居。

年金+総武装 1944＝ 9歳：

敗戦・・・・1945＝10歳：青森大空襲で逃げまどい、戦後三沢に転居。父が戦死、母は米軍三沢基地で働き始める。

極東裁判決・1948＝13歳：青森の叔父に預けられ、母は米軍福岡キャンプへ去る。_中学校で文芸部長をつとめ、俳句などを発表。

独立回復・・1951＝16歳：_県立青森高校に入学。文学部に参加し、地方紙に詩や短歌を発表。

マーデー事件・1952＝17歳：_全国の十代の俳句誌を創刊し、山口誓子、橋本多佳子らの知遇を得る。自選句集を制作、投稿も盛ん。

TV放送始・・1953＝18歳：_全国学生俳句会議を組織して大会を主催。

自衛隊発足・1954＝19歳：母が立川基地の住み込みメイドになる。この年、ネフローゼを発病し、数年の入院生活を送る。早稲田大学国文学科に入学、埼玉の叔父宅に下宿。*短歌同人誌に参加、**“チェホフ祭”50首で第二回短歌研究新人賞を受賞、歌壇は批難で騒然となる。**

なべ底不況・1957＝22歳：_第一作品集「われに五月を」刊行。

インサントマン・1958＝23歳：_第一歌集「空には本」刊行。退院して、賭博とボクシングに熱中。

美智子妃・・1959＝24歳：_ラジオ・ドラマ「中村一郎」により民放祭大賞を受賞、劇作家としての才能を示す。

安保闘争・・1960＝25歳：松竹女優九条映子と出会う。早稲田大学中退。_「血は立ったまま眠っている」などの戯曲を次々に発表。

タイタイ病始・1961＝26歳：新宿の戸建てアパートで母と同居。_ボクシング評論を始める。

全国総合計画1962＝27歳：_第二歌集「血と麦」刊行。

TV宇宙中継始1963＝28歳：九条映子と結婚。***大学祭などで“家出のすすめ”を説いてまわり、社会的な話題となる。**

東京リビック 1964＝29歳：_放送詩劇「山姥」でイタリア賞グランプリ。同「大礼服」で芸術祭奨励賞。競馬評論なども手がける。

大学紛争始・1965＝30歳：_放送叙事詩「犬神の女」で第一回久保田万太郎賞。第三歌集「田園に死す」、詩論「戦後詩」刊行。テレビインタビュー番組「あなたは・・・」で芸術祭奨励賞。

いざなぎ景気1966＝31歳：_放送叙事詩「コメット・イケヤ」でイタリア賞グランプリ。放送ドキュメンタリー「おはようインディア」が芸術祭賞、放送記者クラブ賞。

美濃部都知事1967＝32歳：_横尾忠則、東由多加、九条映子らと演劇実験室“天井桟敷”を結成、以後、演劇を中心とした総合的な芸術運動を展開する。放送叙事詩「まんだら」で芸術祭賞。はじめ見世物の復権を称えるが、やがて市街劇、密室劇、書簡劇など多彩な実験演劇を試みる。

全共闘ピーク・1969＝34歳：_「時には母のない子のように」が大ヒット。状況劇場との乱闘事件で留置される。ドイツで上演。

大阪万博・・1970＝35歳：九条映子と離婚。「寺山修司の戯曲」刊行。叙事詩「地獄篇」。

ドルショック・・1971＝36歳：***映画「書を捨てよ町へ出よう」を監督、サンレモ映画祭グランプリ。ヨーロッパ各地で公演、ベオグラード国際演劇祭で「邪宗門」がグランプリ。以後、毎年ヨーロッパ各地で公演を行い、寺山修司展も行われる。**

石油ショック1973＝38歳：

角柴金脈辞任1974＝39歳：_映画「田園に死す」が芸術祭奨励賞。

クランパール事件1975＝40歳：_市街劇「ノック」公演に警察が介入。オーバーハウゼン実験映画祭で「迷宮潭」が銀賞。

田中角栄逮捕1976＝41歳：_「田園に死す」がヨーロッパの映画祭で審査員特別賞。

JALハイジャック・1977＝42歳：_実験映画「マルドロールの歌」がリール国際短編映画祭国際批評家大賞。

成田衝突・・1978＝43歳：_実験演劇代表作「奴婢訓」。その後も諸誌紙の各部門のベストワンに選ばれる。

貿易摩擦問題1980＝45歳：

・・・・1981＝46歳：***取材中、私道に入り逮捕され、**

中曽根内閣・1982＝47歳：

_肝硬変で二度入院したのち、

デイズ・ニラント 1983＝48歳：_没した。